

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570600306		
法人名	医療法人向洋会		
事業所名	グループホームあけぼの	ユニット名	1号館
所在地	宮崎県日向市財光寺1131-24		
自己評価作成日	平成22年8月25日	評価結果市町村受理日	平成22年11月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.kokuhoren-miyazaki.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4570600306&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成22年9月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気心がけ、ゆっくり過ごせる様にしている。日々の日課を職員や利用者の方と一緒に会話しながら行っている。利用者様の話の聞き要望や希望ができる範囲で実施できる様に心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ゆっくり家庭的に過ごせる施設」を理念に、管理者、職員が利用者、家族と共にケアサービスを行っているホームである。ケアプランにおいても利用者、家族の意見を踏まえ、日常の会話を拾い上げ、利用者の希望を取り入れた計画になるように常に心掛けている。利用者の希望を年に一度はかなえるという方針を職員間で共有し、実践している。利用者間のトラブルにおいては、利用者と共にお茶を飲みながら一緒に解決し、利用者も穏やかな表情でゆったりと生活されていることが分かるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティング等で、話し合い実践できる様努力している。		「ゆっくり家庭的に過ごせる施設」という理念を、管理者、職員はミーティング等にて話し合い、共有し実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、法人内の行事参加の呼びかけ等を実施。		法人内の運動会や花火大会に参加を呼びかけたり、地域の行事に参加し交流を図っている。日常的にもあいさつから始め、交流を図るよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当施設では実施していないが、併設施設の研修会に声かけし参加して頂いている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の結果後報告、説明を行い、改善案等の話し合いを実施。又、外部評価の説明等もあわせて行っている。		2か月ごとに開催され、各月ごとでの議題があがり活発な意見交換が出来ている。外部評価の報告も行われ、改善に向けての話し合いもなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通して、働きかけしている。		今回は、口蹄疫問題の相談など、随時の連絡が行われ、連携を取っている。また、日常的にもサービスの相談などで積極的な連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。ミーティングや毎日の申し送り等で随時話し合いや声かけを実施している。月1回、併設施設での検討会等も実施している。		運営規程の中でも身体拘束を行わないことがうたわれている。法人内の委員会でも定期的な検討会が行われ、随時話し合いも行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング、申し送り等で随時実施している。月1回、併設施設にて検討会を実施している。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じ実施している。又、施設の玄関等にパンフレット類を設置している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の見学時に、当施設の説明や家族の方の話を聞くようにしている。利用者の方には体験にて過ごして頂き、希望や不安な事を随時聞くようにしている。家族の方や本人に、納得された上での契約を行っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方や利用者の方の話をよく聞き、随時解決している。運営推進会議を利用している。利用者の方には、職員とお茶を飲みながら話し合いを行い、意見や不満、心配事を聞くようにしている。		運営推進会議に、多数の家族の出席があり、活発な意見交換が行われている。日常的にも家族からの意見が出され、サービスや運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングにての話し合いを実施し、併設施設にて月2回の定例会や各種委員会で話し合いを行っている。		毎月のミーティングにて職員の意見を拾いあげ、管理者は毎月の定例会に意見を提出し、話し合いが行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	併設施設等が組織的な為、出来る範囲での実施。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が入社時に随時実施している。法人や併設施設での研修会への参加や自施設での勉強会の実施。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的実施している。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ケースワーカー、ケアマネ、職員が家族の話をよく聞き情報を収集したり、本人と話をし、要望、困っていることに対し、出来る範囲で対応を行っている。不安な事に対しては、その都度話を聞き、不安事の軽減に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時、当施設を見学して頂き、家族の方の要望や困っている事について、話し合いを実施している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントして必要な支援を実施している。相談事に応じた職種の方との話し合いや、各サービスの紹介を行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気作りに気をつけている。家事作業や日課の中で、教えて頂いたりしながら過ごしている。色々な場面でそれぞれの役割で日課を職員と一緒にやっている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時一緒にお茶を飲みながら、日頃の様子を話したりして情報の交換を実施している。家族の方や本人の話をよく聞き中立の立場での働きかけを行っている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力を得ながら、定期的に電話して頂いたり、面会時ゆつくりと過ごして頂ける様に心がけている。 個別にて、計画的に実施している。	個別的に計画の中に本人の希望を取り入れ、故郷訪問や墓参りなどなじみの関係が途切れないようできる限りの支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で、利用者の方同士が、一緒に活動できる様に常に気をつけている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も、遊びに来られたり、相談等に随時対応を行っている。(暑中見舞い、年賀)			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の方が話しやすい雰囲気作りに気をつけている。随時情報の収集を行い、職員で共有し毎朝の申し送り、ミーティングにて検討し実施できるようにしている。又、場合によっては関連職種の方との話し合いを行い、検討し出来る範囲での実施。		日常の会話の中から思いや意向を拾い上げるよう職員は気をつけている。年に一度は希望をかなえるよう計画に取り入れ、毎朝の申し送りにて情報を共有するよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サマリー、アセスメント、家族様、ケースワーカー、ケアマネとの連携により、努めて実施している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の申し送り時に、体調、睡眠、食事摂取量等心身の状態確認を行い、毎日の日課を本人に合わせて実施できる様にしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月、6ヶ月のモニタリングを実施し評価している。本人には随時聞き取りを行い、家族の方や関係職種とのカンファレンスの実施。		本人のやりたいことを計画の中に取り入れている。日常の会話の中から希望を拾い上げ、申し送りにて職員は周知している。家族にも随時話を聞き、3か月、6か月ごとにカンファレンスを開き、現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケアチェック、個人別記録、毎朝の申し送り、ミーティングにて情報の交換や話し合いを実施。必要に応じて随時検討会を実施。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設の協力にて実施している。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公園、温泉、スーパー、カラオケ等の利用を行っている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の方、本人の希望を重視している。緊急の場合、併設病院にて迅速な対応が行えている。		家族、本人の希望が重視され、掛かりつけ医の変更時は必ず家族の了承を得ている。法人内の医療は24時間体制のため、家族も安心されており、適切な医療を受けられる支援がされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設、病院の看護師に相談し協力して頂いている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報の提供、定期的な話し合いの実施。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアは実施していないが、それに準ずるケアを行い、随時家族の方、医師、ケースワーカー、ケアマネ、職員での話し合いを行っている。		終末期は、法人の方針もあり行っていないが、24時間の医療体制があり、重度化した場合の対応は、随時話し合いがもたれている。方針を共有し、チームでの支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を実施しているが、色々なケースにスムーズに対応できる様、今後も継続していきたい。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の併設施設、病院の協力による避難訓練を実施。(併設の協力体制が整っている)運営推進会議で地域の方への働きかけを行っている。		昼間、夜間を想定した訓練が1度ずつ行われ、地域の主催する訓練も行われている。また、地域との話し合いで協力体制も取られている。昨年から今年にかけ、実際に2度の避難をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に心掛けているが、不十分な場合もある。		声掛けやプライバシーに関しては、委員会やミーティングにて随時話し合い、一人ひとりを尊重した対応を常に心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思決定を重視し、行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務上困難な事もあるが、その日の体調や状況に合わせて過ごして頂いている。毎朝一人ひとりに挨拶し、本人の希望や話を聞くように心掛けている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの理美容店や衣類を購入したり、本人の希望を聞き実施している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成時、利用者の方と一緒に作成したり、好みのものを取り入れるようにしている。職員と一緒に食事の準備を行っている。		食事の準備や後片づけも利用者と一緒にを行い、同じ食事を職員も一緒にとっている。利用者の状態に応じた食事形態がとられ、さりげない支援を職員は行っていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量のチェックを行い、その日の状況や、必要に応じて補助食品を使用している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の状態に合わせて声かけを促し、介助を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを行い状態を把握・検討し、状況により定期的なトイレの声かけ誘導、失禁パンツ(布、紙)オムツ類を使用している。		排泄パターンを把握した上で、声掛けや誘導を行う。紙おむつ等への変更時には、ミーティングを十分に行い、検討した上で変更している。排泄の自立に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に対し、食材、水分補給、運動量に配慮している。医師へ相談し指示を得ている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	勤務体制上、本人の希望する時間に対応できない場合もあるが、出来る限り希望に沿うよう心がけている。本人のペースに合わせて対応している。		基本的には、一日おきの入浴を行っているが、本人の希望があれば毎日でも入浴できる。できる限り、希望に沿った入浴支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人に合わせた睡眠時間の確保、状況に応じて休息を促し休んで頂いたり、ゆっくり過ごせるように配慮している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の管理は行っている。ミーティング実施時に勉強会をしている。臨時薬の場合は経過を追っているが、不十分な事も多い為、今後も勉強会を実施していく。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの役割があり、日課、レクリエーションの参加をされている。個人ドライブ、外食等の希望を聞き行っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	不十分ではあるが、本人の希望を取り入れ個別の対応を行っている。		個別のドライブや日常的な買い物、なし狩りなどの外出支援が行われている。日常の会話の中から希望を把握し、外出支援が出来るよう常に心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今後検討していく。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により随時行っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が出せるような工夫を行っている。可能なかぎり環境の整備を行っている。(明るさ、目印、音量、室温)		共用空間には、利用者が作成した季節に応じたちぎり絵なども飾られ、日当たりも良く居心地よく過ごせる空間となっている。ソファも置かれ、日中は利用者同士が楽しく過ごせる場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関、ローカに椅子を置いたりして、環境を出来る範囲で整備している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に働きかけしているが、造りつけの家具等があり、できる範囲で行っている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	のれんや居室、トイレ等には目印をつけている。個人の状況に応じてトイレ内に尿パットを設置したりしている。			